

①

突然走り出す



行き交う車などお構いなしに突然走り出す。これは、男の子の子育てでもっとも「あるある！」と共感されることかもしれません。あまりにも衝動的に走り出すものだから交通事故に遭わないか心配で、「ウチの子、ハーンネスでもつけたほうがいいのかしら？」と悩んだ経験のある方も多いのではないのでしょうか。

突然走り出す、いつでも走っているというのは、「運動」の敏感期の特徴で、「動きを身につけるために、同じ動きを何度も繰り返す」という時期。ここでいう「運動」とは、スポーツではなく、「立つ」「座る」「歩く」「走る」「登る」「運ぶ」「バランスを取る」などの基本的動作を指します。体を動かしたいという欲求のままに全身を動かすことで、自分の体を思い通りに動かす能力を獲得するのです。

運動の敏感期は、人生でただ一度、「全力を出し切れる」時期です。この時期を過ぎると、なるべく体力を消耗しない「省エネ」傾向になっていきます。そうやってからだ、自分の体を自由に動かせる能力を習得するために体操などを促しても、楽しまなかったり嫌がったりするでしょう。

とはいえ、自由にどこでも走り回ってもいいわけではないのが難しいところです。事故の危険性がある、人に迷惑をかける場所では「止まれ」ができてほしいもの。

わが家では「止まれ」の道路標識を利用しています。車のおもちゃで遊ぶ際に「止まれ」の標識では止まる、という練習をします。そのうえで、実際に走り出しそうになったとき、交差点などにある「止まれ」の標識を指さして見せて、「ここは『止まれマーク』だよ」と伝えるのです。車や電車、道路標識が大好きな男の子だからこそ使えるワザではないでしょうか。とはいえ、いつでも「止まれ」では、敏感期に全力を出し切ることができません。なるべく公園など自由に走り回れるような場所へ行き、目一杯過ごせる時間を設けるようにしましょう。

「全身を動かしたい」という欲求は、女の子より男の子のほうが強いでしょう。女の子はどちらかというと手先を動かすことを好む傾向があります。お友だちとのコミュニケーションの方法も、男の子は一緒に走り回ったり電車になり切って連結ごっこをして走ったりと、体を動かすことが主体になるのです。